

地震に伴う前兆電磁気現象：総括と将来展望

Earthquake precursory electromagnetic phenoma : Summary and prospective

*早川 正士¹

*Masashi Hayakawa¹

1. 電気通信大学認定ベンチャー 早川地震電磁気研究所

1. Hayakawa Institute of Seismo Electromagnetics.Co. LTD. University of Electro-Communications venture company

地震に伴う電磁気現象は1980年代に2,3の論文が発表されたものの、一部の研究者の注意を引いただけにとどまった。しかし、1995年の神戸地震の際いろいろな電磁気現象が発見されるに至り、世界的に多くの注目を集め、本格的な研究活動がスタートした。その後、地震電磁気学としてここ30年にて大きな発展を遂げ、昨年にはAGUより地震前兆現象と題する新本が発刊され、1つの学問体系になろうとしている。さらに、2014年には日本地震予知学会が発足し、大変盛んである。地震の短期予知に向けての学問的基盤を目指す地震予知学を提唱している。

本講演では、この地震電磁気学の歴史、神戸地震および2011年東北地震での各種電磁気現象の紹介、多年にわたる統計的因果関係の紹介、最新の学問の進展、とりわけ地圏・大気圏・電離圏結合機構などを紹介し、最後に今後の展望を述べる。

キーワード：地震電磁気前兆現象

Keywords: Seismo-Electromagnetics